

はにい 学校から生活へ 生活から学校へ

平成29年1月30日



5年生、家庭科の授業。

調理実習の食材を、自分たちで地域のお店に行って購入した際の「選択のポイント」について、報告する。

「にぼしを買おうとしたら、値段や量のほかに、産地や賞味期限、材料などいろいろな違いがありました」

「例えば産地には、国内産のほか、瀬戸内産や九州産がありました」

「それって、みんな国内産じゃん」

「国内産じゃなくて、瀬戸内産って書いてあるほうが売れるのかな？」

「僕たちは、みそを買ったけど、原材料に外国産のものがあつた。安全なのかな」

それぞれの体験から鋭い意見が飛び交う。

「おススメのポイントに無添加ってあるよ」

「それって何？」

「うちの親が、よく言ってるけど…」と毎日の生活に、学びがつながる・広がる。



「結局、僕たちは、調理実習だから、値段と量を考えて、これを買いました」と一枚の画用紙に、決定した食材と選択のポイントが提示される。

教室の他の壁では、「みそ」「とうふ」「けずりぶし」「わかめ」の報告が行われている。「ゴミの少ないパッケージ」「小分け保存できるか」などポイントは様々だ。

報告が一巡したところで、

先生が問い掛ける。

「それでは、今度は自分の家で食材を購入する時に、あなただったら何をポイントに購入しますか？」

「あなたの大事にしたいことを3つ、まとめてみましょう」

配付された小さな紙に、それぞれの「選択のポイント」が記される。すぐさま友達同士見せ合う子ども達。

「先生、この紙、もらえますか？大事にしたいことを、おさいふの中に入れておきたいから！」

子どもの主体的な学びが、生活へと根付いていく。



『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp